



特集

## ワーク・ライフ・バランスの ススメ

農業機械の製造を行う株式会社ミツワ（熊森）に勤務する<sup>しおぼらしんのすけ</sup>塩原慎之介さんは、9月から三女・<sup>せな</sup>星那ちゃんの誕生を機に育児休業を取得し、毎日の家事や育児を楽しんでいます。長女・<sup>ひな</sup>陽菜ちゃんと次女の<sup>れな</sup>玲奈ちゃんもそんなパパを<sup>ひども</sup>応援、その様子を母・瞳さんと愛犬・れおくんも優しく見守ります。

今号の特集では「ワーク・ライフ・バランス」（仕事と家庭の調和）について、その重要性和取り組みを進めている企業の声を紹介します。

特集

ワーク・ライフ・バランスの  
ススメ

【ワーク・ライフ・バランス】…仕事と家庭や私生活との調和



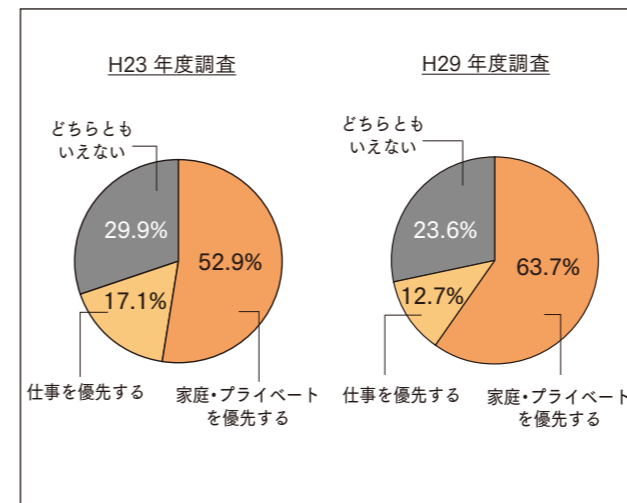
現在日本では、急速に進行する少子高齢化、そしてそれに伴う生産年齢人口の減少が大きな問題となっており、燕市もその例外ではありません。

一方で、近年都市圏から地方への移住傾向も高まりを見せていることも事実です。地方移住希望者をサポートする施設「NPO法人ふるさと回帰支援センター」での相談件数は、新型コロナウイルス感染症による影響のあった2020年を除き、年々増加の傾向にあります(図1参照)。今後は都市圏からの移住に加え、これまで流出していた若者が地元に戻ろうとする動向にも注目が高まっています。

そこで課題となるのが、若者が働きたいと思える職場が燕市にあるかどうかです。「ワーク・ライフ・バランス」つまり、仕事と家庭・私生活のバランスが職業決定において大きなポイントとなっています(図2参照)。地方の人口減少に歯止めをかけ、労働力不足を改善するためにも、「今」こそがさらなる職場の環境改善に取り組むべきチャンスであると言えるのではないのでしょうか。

「家庭・プライベートを優先する」が10.8%増加!

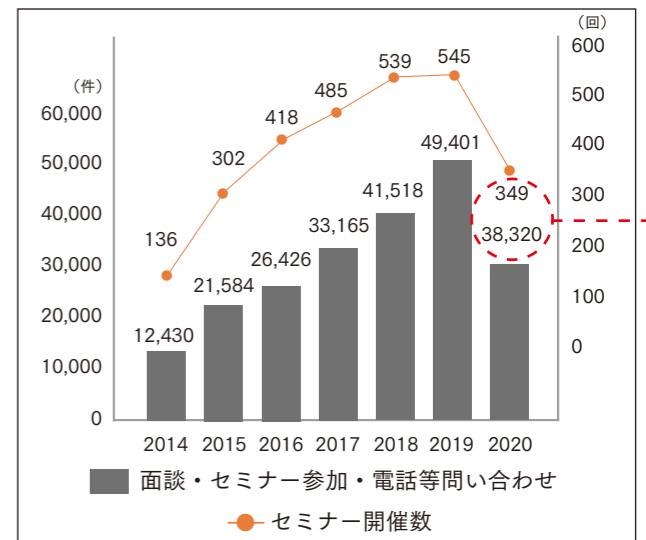
図2 仕事と家庭・プライベート(私生活)とのバランス



※内閣府「平成30年度版 子供・若者白書 特集：就労等に関する若者の意識」から引用

地方への移住希望者は年々増加!

図1 NPO法人ふるさと回帰支援センター年度別実績



※NPO法人ふるさと回帰支援センター提供資料を一部抜粋して引用

求人や仕事の効率化においても

ワーク・ライフ・バランスが鍵

現在の日本・燕市の労働環境について教えてください

働き方改革の推進に伴い、時間外労働の削減や休暇の管理が以前より徹底されるようになりました。燕市の中小企業においてもアットホームな雰囲気は残しつつも、労務管理が浸透してきているという印象を受けます。

今後は、ベテラン世代の退職・人口減少により、人材確保がこれまで以上に難しくなることが予想されます。自社サービスや製品の質の向上に取り組むことと同様に、人材確保にも力を入れる必要があります。そのためには、比較的取り組みやすい職場環境の整備が効果的であると言えるでしょう。

ワーク・ライフ・バランスの実現の必要性やメリットは何でしょうか?

短時間で集中して業務に取り組むことによる労働生産性の向上をはじめ、心身の不調を未然に防ぐという調査結果もあります。また、「職場環境整備の認定や助成を受けている」と求人票に記載があると、やはり

反応が違うようですね。特に求職活動をする若い年代は、ワーク・ライフ・バランスを重視する人が多くなってきましたから、認定制度導入は人材確保にはとても有効な手段だと思います。

職場の環境整備に取り組む上で気を付けることはありますか? いざ職場の環境改善を始めようにも「何から手を付けていいのか」「せっかくの整備ならしっかりと効果を実感したい」と思う人も多いはず。そのためにもまずは国、県、市の認定制度や確認項目を参考に、順を追って進めることが重要です。1つの認定からまた次の認定へと繋がるケースも多くあります。お困りの際は社労士もお助けいたしますので、ぜひお気軽にご相談ください。



いのうえ ともはる 井上 智玄さん (社会保険労務士)

NA & HRコンサルティング社会保険労務士法人 所長

とやま あり 外山 亜里さん (燕市在住)

就職活動を控えた大学3年生



就職先を選ぶ上で重視するポイントは何ですか?

3つあります。1つ目は、「働きやすさ」です。具体的には、休みの取りやすさ(育休や介護休など)や残業時間に注目しています。給与はもちろんですが、福利厚生・休暇制度などのバランスもとても重要だと思います。2つ目はやりがいです。企業の規模や知名度などもポイントですが、自分が働いていく中で一緒に成長した姿を想像することができる企業に魅力を感じます。3つ目は、コロナ禍で導入が進んだテレワークなど、時代に合った働き方への柔軟性もポイントの1つにしています。

ワーク・ライフ・バランスを実現している企業は学生にとっても魅力的ですか?

魅力的だと思います。以前は仕事を最優先とする考え方が一般的だったと思いますが、仕事以外の生活の質も大切だと感じています。生活をしていく上で軸となる仕事だからこそ、職場環境も重要なのだと思います。育休や介護休はもちろん、子どもの学校行事への参加などにも理解がある職場だと嬉しいですね。生活の充実が仕事の原動力にもなると思いますから。

転職が一般的な時代となりつつありますが、長く働めたいと思える企業とは?

私自身は就職をする際に、転職などは考えていません。しかし最近、転職を視野に入れて働いている人が周りに増えていくと感じます。職場内での人間関係から転職を考え始めるきっかけとなる場合もあると聞きます。それに対して、チームワークや困った時に助け合うことのできる体制が整っている企業があれば、就職したいと思うし、長く働めることもできるのだと思います。

生活の軸となる仕事だからこそ

職場の環境を重視します

市では、職場の環境整備を補助する制度を用意（6ページ参照）。活用している企業の皆さんにお話を聞きました。

## 移住者の声

地方への移住傾向が高まっているのは本当？ 燕市に移住する人はいるの？ 実際に燕市へ移住し、市内企業に勤める移住者にお話を聞きました！

### 地方移住を考えたきっかけは？

自分自身の「視野を広げる」ために地方移住を決意しました。あえて地方を選ぶことで新たなチャレンジを始めてみようと考えました。



### プロフィール

おおくあずき  
大胡和希さん

埼玉県熊谷市出身  
10月に燕市へ移住  
趣味はジョギング

### 燕市へ移住を決めた理由や印象は？

「ものづくりが盛んで仕事がある」ことや市の「移住体験ツアー」で実際に足を運び、企業の特徴やまちの雰囲気を知れたことが大きかったです。田園風景が美しく、温厚で気さくな人が多い印象です。

### 勤務先を選ぶ中で重視したものは？

前職では、職場の人間関係に苦労した部分もありました。今回は社員一人ひとりに対してしっかりと向き合っている会社かどうかという視点で会社を見学させてもらい、勤務先を決めました。

### 移住者向け家賃補助制度 をご利用ください

一定の要件を満たして燕市に転入した人に対してアパートの家賃などを、2年間で最大36万円まで補助する制度です。

※「U・Iターン者」だけでなく、「新婚世帯移住者」や「テレワーカー」も対象となります。

●問合せ 地域振興課 交流推進係  
☎ 0256・77・8364

詳しくは市ホームページから▶



## 男性社員の相談から育休の制度認定へ

### 株式会社ミツワ

社員からの相談をきっかけに「つばめ子育て応援企業認定制度」の取得に取り組み、長く働ける企業を目指して社員をサポートしています。



▲育休を取得した社員と同部署のみなさん。お互いにカバーし合える体制を整えています。



代表取締役社長 中村七子さん

「現在、つばめ子育て応援企業（3つ星）への認定手続きを進めています」そう話すのは株式会社ミツワ代表取締役社長の中村さん。男女問わず、長く勤めることができる環境づくりが必要だと考え始めていたところ、男性社員（表紙の塩原さん）から長期の育休が取得できないかと相談がありました。「繁忙期とも重なり、優秀な人材が欠けるのは痛手でしたが、同部署の社員たちはとても前向きに捉えてくれました。会社としてもしっかり応援したいと考え、制度の取得も同時に進める運びとなりました」

制度の利用には、補助金の支給以外にもプラスの効果も期待しているとのこと。「育休を経験した社員をきっかけに、互いの家庭や子育ての状況を理解し、協力し合える職場環境になってほしいと思っています」若い人たちが会社に求めるものは、休暇や福利厚生充実だと実感するようになったそう。会社として、業務と社員の働きやすさのバランスを見ながら、今後もサポートを続けていきます。

「社員の声をよく聞き、柔軟な対応が求められる時代です。中小企業ならではの距離の近さを武器に、働きやすい環境の実現に向けて努力していきたいです」

## 積極的な制度導入で職員を支援

### 学校法人真学園

「つばめ子育て応援企業」の認定を受けている真学園。男性職員の育休取得を推進するなど、制度の取得・活用を積極的に行っています。



▲制度の導入を進め、職員の働きやすい環境を整備しています。

園長の田辺良文さん（左）

保育教諭の永田一晶さん（右）

「家族と大切な時間を過ごすことができ、本当に充実した期間でした」そう育休期間を振り返るのは、真学園で保育教諭として勤務する永田さん。子どもが生まれ、初めての育休を取得することができたのは、職場のサポートが大きかったと言います。「クラス担任としての責任もありましたが、園長先生や教頭先生の後押しもあり、不安なく家族との時間を過ごすことができました」

子どもの成長はあっという間。今回育休を取得した経験から、「父親として育児に参加できる喜びをぜひ多くの男性に味わって欲しい」

と話してくれました。

また、「ただの休暇ではなく、『育児』のための休暇。取得する本人の意識も違うと思います」と答えてくれたのは園長の田辺さん。家族と過ごす時間が充実することで、仕事にも良い影響が出ることを見込んでいます。

現在、「つばめ子育て応援企業」の認定を受けている真学園。「今ある制度をしっかりと活用し、より良い仕事ができるように」と積極的に職場環境の改善に取り組まします。「今後も、職員にとって有益な制度をどんどん取り入れていきたいです」

## 社員の子育て支援のため、就業規則を整備

### 切り文字屋オッケイ株式会社

今年、「みんなが活躍できる職場環境づくり推進補助金」を利用し妊婦のための就業規則を整備。社員同士のコミュニケーションも含め、働きやすい環境づくりを進めています。



▲社員同士の良いところ伝え合うなど信頼関係を築いています。

代表取締役の沖野恵子さん（左）

副社長の沖野兼一さん（右）

女性が9割を占める職場で、女性のための就業規則を整備する必要があったと話す代表取締役の沖野恵子さん。つわりなどで出勤できない社員のための休暇制度を今年新しく整備しました。「本人のための休暇であることはもちろん、これから出産や子育てを迎える若い人たちにも知ってもらい、活用して欲しいですね」

積極的に就業規則の改正に乗り出すなど、働きやすい環境づくりに取り組む背景には独自の休暇の考え方があった。「まず休みを取りましょう。そうやって声をかけていきます。仕事と家庭のバランスが取れるように」

「育休などは、目一杯取るように伝えていっていますが、ある程度経つと『仕事に復帰したい』と言ってくるんですよ。休暇と仕事の良いバランスで生活にも張りが出てくるように、とても嬉しいです」

「そう笑顔で話す2人。今後は家族の介護や遠隔地勤務などの体制を整え、今以上にサポートを進めていきたいと意気込みます。」

「副社長の沖野兼一さん。前の職場では休みを取りづらかった社員が今では、『日々の生活が変わった』と喜んでくれるなど、その効果を肌で感じているようです。」

市では、すべての女性が輝いて活躍しやすい環境づくりを推進するため、身近なモデルとなる女性や女性の活躍を応援している事業所・団体を表彰する「つばめ輝く女性表彰」を毎年行っています。今年度の受賞者と受賞理由を紹介します。



### 切り文字屋 オッケイ株式会社

休暇制度の整備やテレワークの導入を行い、社員が仕事と家庭の両方で活躍できる職場づくりに力を入れています。休暇の取得率を向上させるため、「休んでも他の人に任せられる」仕組みづくりも行っています。



### 公益社団法人 燕市シルバー人材センター

女性を対象とした入会説明会の開催など、女性がのびのびと働ける環境づくりに力を入れています。また、男女を問わず参加できるシルバー世代のファッションショー「ツバコレ」を開催するなど、男女が共に活躍できる場を提供しています。



### 武田 千恵子さん

1997年から現在までの24年間、シルバー人材センターの会員として主に障子・襖張りの仕事に従事。講習会の講師を務めるなど、後継者育成にも尽力。充実した日々を送る武田さんの姿が、他の女性会員の理想や目標となっています。



近年、テレワークやフレックス制の導入など「働き方」の多様化が急速に進みました。従来の形式に縛られない勤務形態が今後さらに拡大していくことが予想されます。また、会社に「働きやすさ」を求める傾向が高まり、福利厚生や休暇の取りやすさなど、生活と仕事の調和が従業員の定着率や満足度に大きく影響するとも言われています。

どの地域でも人材不足が深刻化する中、会社を選ぶ際に「働きやすい」環境を重視するケースが増えていることは事実です。新たな労働力の確保や従業員の帰属意識の向上につながるためにも、今後は各企業によるさらなる積極的な職場環境の整備が必須となるでしょう。

市では、誰もが安心して継続的に働くことのできる職場環境づくりの整備をするための補助金や従業員の子育てを応援する企業の認定制度を用意しています。より良い環境づくりのために、ぜひ一度ご相談ください。



燕市 地域振興課  
課長 本間 聖規

問合せ  
地域振興課 協働推進係  
☎ 0256・77・8361

## 制度紹介

### みんなが活躍できる 職場環境づくり推進補助金



中小企業が行う、組織のワーク・ライフ・バランス、女性活躍またはダイバーシティの推進を目的とした職場環境改善の取り組みに要した費用の一部を補助します。

#### 【補助対象事業】

- 社内・社外研修 □ 就業規則の変更
- 外部専門家によるコンサルティングの導入 など

※整備費や購入費などは対象となりません

#### 【対象経費】

- 講師謝金 □ 研修参加費 □ 委託料 □ 相談料 など
- ・「つばめ子育て応援企業（認定予定含む）」なら、対象経費の3分の2以内、上限20万円まで補助

・それ以外の企業は対象経費の2分の1以内、上限10万円まで

#### 【補助対象者】

燕市内で1年以上事業を営み、常時雇用労働者が2人以上の中小企業者

#### 【申請期間】

12月24日(金)まで

※期間中は随時受付。ただし、予算額に達し次第受付を締め切ります。

※事業実施前に交付申請をする必要がありますので事前にご相談ください。

#### ※つばめ子育て応援企業認定要件

新潟県の「ハッピー・パートナー企業」に登録し「子育て応援プラス」または「イクメン応援プラス」の上乗せ認定を受けていること

- つばめ子育て応援2つ星企業：「子育て応援プラス」認定を受けた企業
- つばめ子育て応援3つ星企業：「イクメン応援プラス」認定を受けた企業

### つばめ子育て 応援企業認定制度



仕事と子育てが両立できる職場環境づくりに積極的に取り組む企業を認定します。現在19事業所が認定されています。



#### ▶ 男性の育児休業取得促進奨励金

つばめ子育て応援企業に勤務する男性従業員が、5日以上の育児休業を取得した場合に、事業主と取得者に奨励金を交付します。現在までに4事業所4人に交付しました。

対象	育児休業取得日数	交付額	年度内交付上限額
2つ星企業	5日以上	7万円	7万円
3つ星企業	5日～13日	7万円	15万円
	14日以上	15万円	
男性従業員(市内在住)	5日以上	5万円	5万円

※令和3年度から、市外在住の従業員が取得した場合でも、事業主には奨励金を交付できる制度に改めました。

予告

### 30歳までに考えるこれからの生き方 ～マイキャリア×ライフプランセミナー～

市内で働く若手社員のみなさん向けのセミナーを開催します！

■時期 2月頃(予定)

■内容 これからの働き方・仕事と家庭の両立などについて考えるワークショップ、先輩パパママの体験談など

※詳しくは今後の広報つばめなどでお知らせします。

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて  
ワーク・ライフ・バランスといっても、単に「仕事」と「仕事以外の生活」の時間を均等にするという意味ではありません。仕事と生活のバランスをどのように望むかは人それぞれで異なります。

その目指すところは、「やりがい」や「充実感」を感じながら働き、仕事上の責任を果たす一方で、家庭や地域生活、個人の自己啓発など、さまざまな活動を自らが希望するバランスで展開でき、多様な生き方を選択・実現できるようにすることです。

ワーク・ライフ・バランスは、働く一人ひとりが意識して取り組むべきものです。企業側の働き方に関する制度の整備や勤務管理体制、働きやすい職場風土がないことには実現が難しくもあります。

「仕事と生活を切り離して考えるのではなく、相互に良い影響を与え合うものとして、ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す」まずはそのように意識することから始めてみませんか。